

が比較に用いたコブランの未熟な胞子と大変良く似ていた。それで胞子形態学からも *O. simplex* はサクラジマハナヤスリとは異なる系統に属することが明らかとなった。

3. *Japanobotrychium chamaeconium* はアフリカ大陸唯一のハナワラビ類で、外部形態からアリサンハナワラビに良く似たものとされている (Ballard; Kato & Sashashi)。このものの胞子をイギリスの British Museum の Dr. Jermy から送っていただいた。胞子の形態はアリサンハナワラビに大変良く似ており、これまでの見解を強く支持するに足るものであった。

○高等植物分布資料 Material for the distribution of vascular plants in Japan.

101 マツバラン *Psilotum nudum* (L.) Griseb. 本種は大井次三郎、田川基二博士らの著書では、本州 (関東以西)、四国、九州の山中、樹幹および岩上にやままれに産するとしてあげている。1979年5月、福島県東白川郡矢祭山村の岩壁で、本種が2株生育しているのを見つけた。栃木県植物総覧 (1941) には、塩谷郡船生村佐貫の岩上に生育している記録があるが、福島県に生育しているのを見たのははじめてである。標本は10月に得たものを、茨城大学教育学部標本室に納めておいた。おそらく北限かと思われるので記録しておくことにした。

(茨城大学 鈴木昌友 Masatomo SUZUKI)

□Hara, H. & L.H. Williams: **An enumeration of the flowering plants of Nepal.** vol. 2. 220 pp. 1979. Trustees of British Museum (Natural History), London. ¥13,000. 本誌53巻335頁の新刊紹介にあるシリーズの第2巻。第1巻と構成は同様であるが、原寛博士のほかの代表編著者は、英国博物館側の停年などによる事情で変更されている。本巻にはキンボウゲ科からウコギ科までと、合弁花類ではキク科の前までが、ベンサム・フッカー方式の順に収容されている。最後部に本巻で発表された新学名が25リストされている。また11項目の正誤を印刷した紙片がはさまれている。大小103の科の中、原氏のまとめたもの約50科、Whitmore博士のもの約30科があり、他に16名の協力者がある。その中には故 J. E. Dandy 博士、W. T. Stearn 博士、および、S. Y. Sutton, O. Chater の諸氏がある。日本側の協力者としては、靱山泰一 (ブドウ科)、大橋広好。(マメ科、バラ科のナシ亜科の諸属、キジムシロ属など)、大場秀章 (ベンケイソウ科) の諸氏がある。Desmodium および近縁属の種への Key, Hedysarum, Rhynchosia, Sedum, Rhodiola, Hypericum などの種への Key がついている。なお、ネパールで栽培されている種も適当に登載されている。全体の編集の実務はほとんど原寛氏がした。この出版は日英協同の大きい成果を示している。続く第3巻での完成を待ちたい。東京、本郷、井上書店で取扱い中。

(津山 尚)